

2022年度の事業報告書(案)
2022年7月1日から2023年6月30日まで

特定非営利活動法人ドネーションシップわかちあい

1 事業の成果

▼生命と自立を支える事業:

○「使途指定寄付」として「山王こどもセンター」建替え応援プロジェクトを実施した(7月~12月)。大阪西成区で様々な事情を抱えた子どもたちの居場所となっている「山王こどもセンター」の建物老朽化に伴い、その建て替えを応援するプロジェクト。会員の皆様中心に536,000円が寄せられた。あわせて京都で応援の「わかちあいミニバザー」を実施、この売上とドネからの補填で合計100万円を寄付した(2022年12月)

ORAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)に50万円の「わかちあい」寄付を実施した。(2022年12月)

国内で難民申請中の方、困難な状況にある難民を直接支援しながら、日本の入国管理、難民認定の問題を訴え啓発している。

○「希望のまちプロジェクト」に50万円の「わかちあい」寄付を実施した。(2023年6月)

北九州で困窮者支援続けてきたNPO法人「抱樸」の呼びかけ。地域に様々な機能を持った総合型社会福祉施設を建設し、そこを拠点としてあらたな「まち」を拓げていく取組み。新しい社会、お互い様のまちをめざす。

○六甲ウィメンズハウスに50万円の「わかちあい」寄付を実施した(2023年6月)

困難を抱える女性や母子が安心して自立へと踏み出せる「住まい」をつくる取組み。NPO法人「女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」と「神戸学生青年センター」の協働事業。

▼情報などの事業:

情報交換や会員交流に努め、わかちあいに共感する人のつながりを築いた。これまでご縁のあった方、ご支援下さる方々をゆるやかににつないだ。交流掲示板、通信発行、メルマガ、事務局ブログを通して当会の活動や寄付先の現場からの情報を発信した。

▼全体として: 発足から16年余の寄付の総額は 39,544,172円になった。(2023年6月末現在)

小さな一人ひとりの気持ちを集めて、一人では出来ない額の寄付(わかちあい)をすることが出来た。様々な現場で実際に役立つことができた。これからも国内外の現場に「わかちあい」を届けていく。寄付の実績を積み上げていく。

コロナ禍以降対面の催しは中止してきたが、感染状況も落ち着いてきたので秋に初めての「わかちあいミニバザー」を実施した。励ましの声をかけて下さる方もあり、人の心のあたたかさを感じた。そうした人々の気持ちを形にしていく思いを新たにした。

また5月に事務所を移転した。新拠点を「わかちあい」を通じて人と人とがつながる場、安心して人が出会える場所にしていこうと踏み出した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数
情報などの交流を促進する事業	ウェブサイト、ブログ等をつうじて、困った時はお互い様の輪を広げる情報発信、交流を図る。通信(年2回)発行。	通年	法人事務所等	15人	不特定多数
生命と自立を支える事業	▼第二回使途指定寄付 山王こどもセンター建替え応援プロジェクトを実施。合計100万円を寄付	2022 7月~ 12月	法人事務所等	15人	大阪・山王こどもセンターの子どもたち、生きづらさを抱える大人たち、地域の方々。
	▼RAFIQ(在日難民との共生ネットワーク)に50万円を寄付	2022 12.12	法人事務所等	10人	日本で暮らす難民
	▼2団体に合計100万円を寄付 ○希望のまちプロジェクトに50万円 ○六甲ウィメンズハウスに50万円	2023 6.26	法人事務所等	10人	生活困窮にあるの方々、困難を抱えた女性や母子

◆生命と自立を支える事業 ドネーションシップ・プロジェクト（2022年7月～2023年6月末）

●途指定寄付<第2回>

大阪・山王子どもセンター建替え応援プロジェクト (2022年7月～12月)

山王子どもセンターは大阪西成区で様々な事情を抱えた子どもたちの居場所になっている。築80年の建物の老朽化が進み、建て替えを決意されたことを知り、第2回の使途指定寄付として、その建て替えを応援するプロジェクトを決めた。会員の皆様中心に536,000円が寄せられた。あわせて京都でも応援の「わかちあいミニバザー」を実施、この売上とドネからの補填で合計100万円を寄付した。



●第23回「わかちあい」

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）に50万円を寄付（2022年12月）

2021年3月スリランカの女性ウィシュマさんが、名古屋入国管理局の収容施設で必要な医療を受けられず亡くなった。こうした問題に関心を持つなかでRAFIQを知った。パンフを取り寄せ、学習会に参加、代表の方に話を聞いて、日本が「難民鎖国」を続けていることを知った。実際に難民の方と向きあい直接支援をしながら、こうした問題を発信されている。私たち自身が難民の現実を知り、学んでいこうと寄付を決定した。

●第24回「わかちあい」

2団体に各50万円、合計100万円を寄付(2023年6月)

▼希望のまちプロジェクト

北九州で困窮者支援を続けておられるNPO法人「抱樸」が呼びかけるプロジェクト。地域に様々な機能を持った総合型社会福祉施設を建設し、そこを拠点としてあらたな「まち」を拓げていく取組み。新しい社会、お互い様の「まち」をめざす、という呼びかけに私たち自身も参加したいと応援、寄付を決めた。この取組みがモデルとなって各地に広がっていくことを願う。

▼六甲ウィメンズハウス

留学生支援の古本市でご縁のあった神戸学生青年センターからの呼びかけでこの事業を知った。公益財団法人「神戸学生青年センター」とNPO法人「女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ」の協働事業。困難を抱える女性や母子が安心して自立と踏み出せる「住まい」をつくる取組み。社会の格差の拡大と二極化が進むなかで、安心して暮らせる住まいがあるかどうかは、人ごとではない。この時代にあって、いつ自分が同じ立場に置かれるかわからないとの思いで応援を決めた。

～ひとりできることは小さいけれど みんなの力をあわせれば 世界に笑顔がひろがっていく～

発足から16年余の寄付の総額は39,544,172円になりました！



新事務所オープン、サンタナ学園から3名参加下さいました！



山王子どもセンターから お礼のメッセージをいただきました

◆活動日誌 (2022年7月～2023年6月末)

～第2回、使途指定寄付、山王こどもセンター建替え応援プロジェクト開始～

7月25日 ドネ通信28号発送 (会員更新のお願い)

～総会に向けての事業報告書、会計報告書の作成～

8月27日 通常総会 理事会

～コロナ禍で、書面表決含めた少人数開催とする～

～年度末文書の承認、役員を選出、他～

10月8日 ドネ会 (拡大理事会)

～代表理事の選出、使途指定寄付の集約、寄付先候補について

10月16日 わかちあいミニバザー (1回目、お試し開催)

10月30日 いくのパーク、プレオープンイベント (有志参加)

11月6日 わかちあいミニバザー (2回目)

11月12日 RAFIQ (在日難民との共生ネットワーク) 初級講座に参加 (立川、芝本)

11月20日 わかちあいミニバザー (3回目)

11月23日 「希望のまちプロジェクト」奥田知志さん講演会 (有志参加)

12月10日 ドネ会 (拡大理事会)、納会

～寄付先選定委員会、他～

山王こどもセンター建替え応援プロジェクトに100万円、RAFIQに50万円の寄付を決定 (12/12送金)

1月27日 ドネ通信29号発送 (対象者には寄付金受領証明書を同封)

2月11日 ドネ会 (運営会議)

～事務所移転について、相談～

3月11日 3.11メモリアルキャンドルinむかいじま (有志参加)

4月18日 ドネ会 (運営会議) 事務所移転を正式決定

5月17日 引っ越し、事務所移転

6月24日 新事務所のお披露目、ドネ会 (拡大理事会)

～寄付先選定委員会、他～

希望のまちプロジェクトに50万円、六甲ウィメンズハウスに50万円の寄付を決定 (6/26送金)

6月25日 多文化共生のまちづくりの拠点「いくのパーク」支援者交流会に参加

※日常的にウェブサイトでの情報発信 (ドネの活動、寄付先からの情報等)、ブログ、メルマガ、交流掲示板での情報発信、情報共有、会員交流。運営掲示板での相談を実施。

コロナの影響でわかちあい祭りは中止したが、初めての試みとして会員宅ガレージを借りてのわかちあいミニバザーを実施した。



わかちあいミニバザーを開催

